



高村 智 議員

質問	市長
きじひき高原に天空のブランコを設置してはいかがか 貴重なご提案をいただきと受け止めておきたい	令和3年第3回定例会の柄木議員の通告に対して、2期目も担わせていただければと市長は答えていました。

市長は、現在の北斗市の課題と今後このまちをどのような方向に導いていこうと考えているのかお聞かせください。

(1) 人口減少対策と少子高齢化について
(函館市・七飯町との人口減数の比較)

(2) 企業誘致について

(3) 学童保育について

(4) 待機児童と保育士の人材不足について

(5) 子どもの貧困について

(6) 教員の働き方改革について

(7) 觀光事業について

(8) 市職員の労働環境について

(9) 1次産業の後継者問題などについて

(10) 新函館北斗駅周辺について

(11) L.G.B.T.Qへの取り組みについて

答（市長）(1) 国勢調査に基づく本市の人口も平成17年をピークに減少傾向が続いているおり、平成27年の4万6千390人に対し、先月末に公表された令和2年実績が4万

4千302人となり、この5年間で2千88人、率にして4.5%の減少となっています。同様の比較で、函館市は1万4千895人、率にして5.6%の減少、七飯町は434人、率にして1.5%の減少となっています。

本市の特徴として、20歳前後の若年層の転出増加が顕著であり、地域の人材不足の解消を図るためにも、若年層の回帰につながる事業を実施しています。

また、自然動態については、結婚から妊娠、出産、子育てまで、切れ目のない支援体制を構築していくことが必要であり、安心して産み・育てができる環境を整えることで、出生数の増加を図つてしまいたい。

(2) 優れた地域特性を強力に発信するとともに、コロナ後の企業活動回復を見据えた優遇措置の拡大を図り、企業への効果的なアプローチを行つてしまいたい。

(3) 今後の課題として、終了時間の延長が挙げられますが、児童の夕食、入浴、学習、睡眠など生活習慣が適切に維持されることが重要であり、利用料金も含め、利用者アンケートを取りながら協議・検討していきたいと考えています。

(4) 本年10月1日現在の潜在的待機児童数は34人で、約半数が七重浜地区の認定こど園を希望しています。

(5) 潜在的待機児童の対策としては、定員の12%以上の状態にならない範囲内で受

け入れをしていきたいと考えております。そのためには、保育面積の確保と保育士の配置が必要となります。

現在、子育て支援センターの統廃合を中心効果的な対策を講じてまいりたい。

(5) 本市の児童扶養手当受給世帯では、年収300万円以下の世帯が約8割を占めており、経済的な困難が懸念されますので、来年度から設置する子ども家庭総合支援拠点機能の中で、詳細な実態把握を行うなど、適切に対応してまいりたい。

(6) 平成30年度に策定した「北斗市働き方改革プラン」に基づき、教員が本来担当すべき業務に専念できる環境の整備に努めているところであり、今後は、従来の仕事の仕方にとらわれない新たな視点で議論を重ね、さらなる働き方改革を進めてまいりたい。

(7) 昨年度から実施している着地型観光新しい手づくり事業を積極的に展開することで、本市の魅力を生かした体験観光商品の開発と普及促進を目指してまいりたい。

(8) 行政サービスを向上させていくためにも労働環境の改善・向上が不可欠なため、全職員を対象に人材育成の強化に努めるなど、職員の資質向上や意識改革にも取り組んできており、今後も継続して働きやすい環境の整備に努めてまいりたい。



きじひき高原からの眺望
「駒ヶ岳と大沼」

(9) 1次産業の就業人口は減少傾向が続いているおり、後継者問題の解決には、所得の向上が最も重要なと考へています。

(10) 市では、にぎわい創出のため今夏以降、地域の方をターゲットとしたイベントを開催しており、引き続き、新駅周辺の活性化に向けた施策を進めてまいりたい。

(11) まずは、市民の認識と理解を深めることが重要であり、啓発などできることから取り組んでいくほか、近隣市町などの動向を注視しながら、必要な取り組みを検討してまいりたい。

答（市長）天空のブランコは貴重なご提案をいただきと受け止めておきたい。

答（観光課長）新駅周辺のイベントは、ミニ四駆に限らず、費用などを協議し実施の可否を含めて検討してまいりたい。

